

2020年1月30日

各位

会社名 マクセルホールディングス株式会社
 代表者名 取締役社長 勝田善春
 (コード番号: 6810 東証第一部)
 問合せ先 ブランド戦略・広報 IR 部
 (TEL. 03-5715-7061)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえ、2019年4月26日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期連結業績予想を以下のとおり修正しましたので、お知らせします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 167,000	百万円 5,000	百万円 3,000	円 銭 58.09
今回修正予想 (B)	149,000	2,000	1,700	32.92
増減額 (B-A)	△18,000	△3,000	△1,300	-
増減率 (%)	△10.8	△60.0	△43.3	-
(参考) 前期実績 (2019年3月期)	150,584	5,424	5,311	100.51

2. 修正の理由

売上高は、当初計画との比較で、エネルギーセグメントについては、民生用リチウムイオン電池の受注が増加したものの、産業用部材料セグメントの自動車市場向け光学部品や半導体関連組込みシステムが自動車、半導体といった市場の低迷により苦戦し、また電器・コンシューマーセグメントのプロジェクトや健康・理美容の販売が低迷しており、全体では前回発表予想を下回る見込みです。

利益面についても、当初計画との比較で、民生用リチウムイオン電池の増益が見込まれるものの、自動車市場向け光学部品や半導体関連組込みシステムが市場低迷による減収の影響を受けていることに加え、プロジェクトや健康・理美容の不振とヘッドアップディスプレイの開発費が本格採用に向け増加していることが影響するなど、全体では営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回発表予想を下回る見込みです。

このような状況をふまえ、2021年3月期に向けて、当社として対策が必要な課題事業のうち民生用リチウムイオン電池については車載へのリソースシフトを大きく進めるとともに、プロジェクター、健康・理美容については独立採算に耐えうる事業への構造改革を確実に推進します。こうした施策により、伸ばすべき事業への経営リソースの集中を行い、事業ポートフォリオの抜本的改革を実行していきます。

【通期セグメント別業績予想】

単位：百万円

	売上高		営業利益	
	今回予想	前回予想	今回予想	前回予想
エネルギー	39,400	35,500	2,800	1,450
産業用部材料	55,300	65,600	1,100	3,250
電器・コンシューマー	54,300	65,900	△1,900	300
合計	149,000	167,000	2,000	5,000

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上